

伝統こけしのふるさと  
(県別こけし産地紹介)

柴田長吉郎

3. 山形県

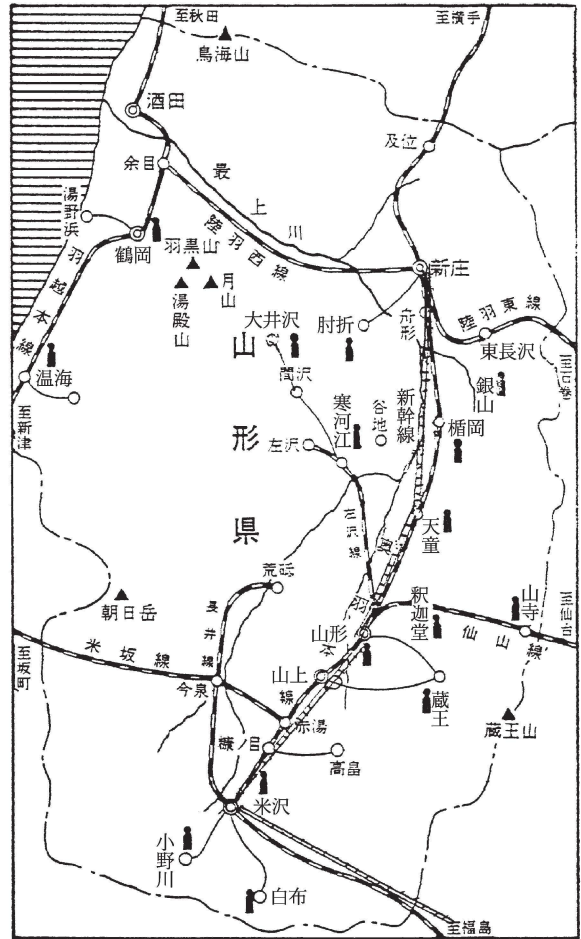
山形県で生まれた伝統こけしは、いづれも他の産地にくらべて、やや後発と言える。山形県で生まれたうち、蔵王系は、もと蔵王山刈田岳を山越えして運び売られていた遠刈田系のこけしが、蔵王温泉で遠刈田系工人を呼んで製作する様になって変化したもので、最も遠刈田系の梯を残している。山形系は、山形の工人小林倉治が、作並温泉で修業して山形へ帰って後、独特の形式に変化したものである。また、肘折系は、肘折温泉で遠刈田系の工人と、鳴子系の工人が相ついでこけし技術を教えた結果生れた型で、両系の特色を併せ持つ混合型である。現在では、それぞれの土地の工人の子弟たちが、それぞれの型をうけついで製作を続けている。

3.1 山形市

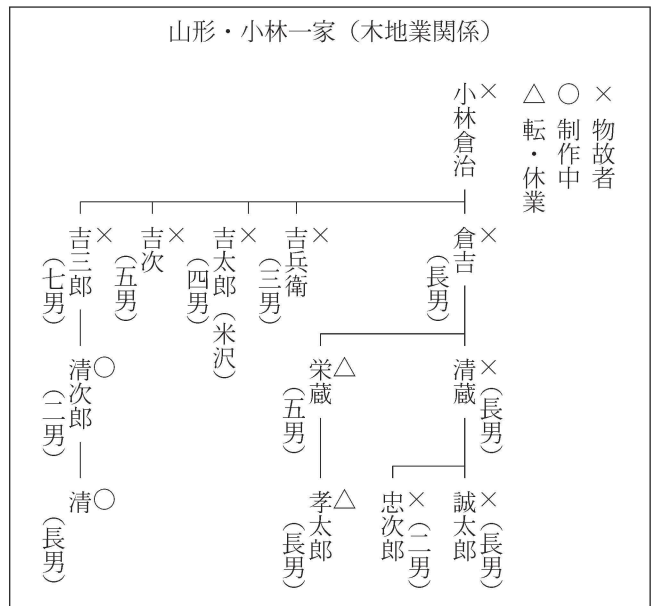
作並で修業した小林一族が山形市内で木地業を始めたもので、新築西通りの小林倉治、誠太郎が本家であるが、誠太郎亡きあと、木地業の後継者が居ない。このほか、小林一家の木地業関係者が図に示されているが、現在は桧町の清次郎一家と、その弟子の阿部正義(古館)しかこけしを作っていない。

山形系発祥地の山形で小林一族の木地業離れは淋しい限りであるが、米沢へ行った吉太郎の弟子達が山形系の木地業を続けている。

**蔵王温泉** 山形駅前よりバスで約45分の位置にある温泉地で蔵王山の西腹にある。古くから開けた温泉で、もと遠刈田や青根から木地製品を仕入れて売っていたが、明治中期に青根へ修業に行っていた岡崎栄治郎や遠刈田から来た職人達により蔵王の木地業が始まった。この様にして蔵王系のこけしは遠刈田系を祖型とするが、胴が太くなりその他の工夫も加わって、独特の特長を持つようになって、一つの系統となっている。蔵王温泉には、能登屋と緑屋など古くからの木地屋兼土産物店や、銀嶺等のこけし製作・販売店、その他の土産物店などがあり、多くの工人がこけしを製



山形県こけし産地



作り販売している。

山形市内でも、泉町や、釈迦堂などに蔵王系工人がおり、こけし製作を続けている。

**山寺** 現在は山形市に入っているが、芭蕉の訪れた有名な観光地で、故石山三四郎が蔵王系の独特のこけ